

其利群生の もりをめざして



金剛峯寺中門の霊木(内談議にて)
金剛峯寺大広間で行う儀式(問答)の一つで僧侶は論議に出仕し自己を磨き僧位を築きます。

霊木が語る千二百年の信仰

総本山金剛峯寺 山林部長

山口 文章

今春、高野山開創千二百年記念大法会が厳修されました。五十年に一度の吉祥とあつて、五十日間で六十万人を数える多くの皆様にご参拝いただきました。

参拝いただいた多くの人々とともに千二百年前の高野山に思いを馳せるとき、深山幽谷の大自然に独り立つお大師さまの姿を思い浮かべずにいられません。

お大師さまは高野山のことを「平原の幽地」と称されました。標高八百メートルという高地にありながら広大な平原状の盆地であり、大日如来のエネルギーを充滿させている聖地であるという意味です。

金剛峯寺山林部はお大師さまがこよなく愛された高野山の大自然を護持し、信仰環境を維持していくことを第一義としています。百年後、千年後も現在と変わらない「平原の幽地」を伝えていくため、多くの皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

参与会

国道371号「高野山環状道路」開通にともない大門口「お助け地藏尊」の近くに駐車スペースができあがりました。ここに参与会から頂いた2基目の啓発看板を設置させていただきました。

祖山の尊厳と環境を護り続けてきた先人の努力と想いは受け継がれてきました。将来的にこの看板が不要になることを願ってやみません。



高野山真言宗参与会事務局
電話/0736-156123(直)

「八葉のしきみ」

しきみは仏花として知られております。高野山ではコウヤマキ同様に多く使われています。

むかし高野山南麓、花園村新子(あたらし)の金剛寺と言うお寺には枝先に葉が8枚集まったしきみがあり、「蓮華八葉」にちなんで「八葉のしきみ」と呼ばれていました。江戸時代の書「高野春秋」にも金剛寺の傍に大師伝来の種子ここに植えると記されております。しかし昭和27年の大水害による山津波によりすべてが削り取られ裸山となりました。

最近このしきみが、実際に今も植え継がれていると言うことで花園村役場の亀井氏にご案内いただき、結界で囲まれたしきみを見学させていただきました。

尾上角兵衛氏の研究結果によりますと花園



村に現存する「八葉のしきみ」は普通のしきみであると結論付けられており実際に枝先に8枚のものは確認できませんでしたが、高野山のどこかで見つけた時はすぐにご報告させていただきます。

また祖山の森林管理についてご意見ご要望などございましたらお聞かせください



亀井氏に花園村新子で説明を受けた

特別母樹林

一の橋を渡ってすぐ左に1番の杉があります。そこから御廟までの参道にそって立ち並ぶ733本の巨木が特別母樹林として国からの指定を受けています。(すべて番号にて管理)

特別母樹林とは生育が優良な種子の採取源として設定された林分であり、樹齢は推定500年を超えており林床にはおびただしい数の石塔が祀られています。

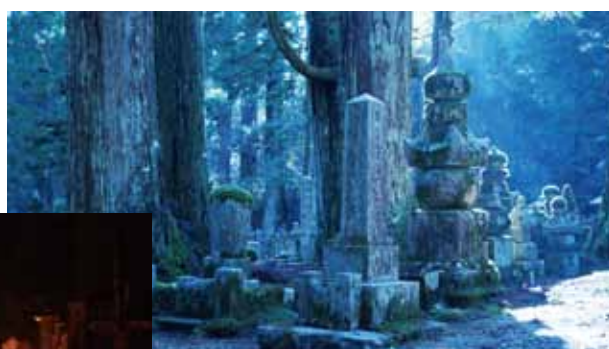
過去に遺伝解析を行った所、関東・東北・四国・広島などの天然林に由来する個体が多くみられたそうです。

一説によると全国の大名から苗木の寄進を受けたり、石塔建立時に故郷の苗木を植林したと言われておりますが、現在では遙か昔に争った時代の諸大名たちをはじめ様々な階層の方が共に眠る森厳な環境の中心的存在となっております。また毎年8月13日の夜には先祖の安らかな眠りを願う盂蘭盆(うらぼん)の仏事・万燈供養会(通称ろうそくまつり)が行われます。



高野の風物詩 切子灯籠

灯籠堂にて厳かに法要が営まれ一の橋から灯籠堂までの参道の両脇には10万本のローソクの灯りが光の川のような幻想的な空間に包まれ心が洗われるようです。



参道に並ぶ置灯籠

高野山銘木の跡をたずねる

対面桜

鳥羽天皇の命により大塔修復を仰せつかった平清盛が工事を終えて高野山に登ってきた際、このサクラの下で一人の老僧と出会い清盛に向かって大塔修復の慰労の言葉をかけました。更に「悪行をすれば子孫繁栄は約束されない」と注意をして姿を消したという話が連綿と伝えられてきました。

これは弘法大師が老僧に姿をかえて清盛のおごる心を戒められたものと言われています。開創1200年法会が中日をむかえた頃、この対面桜が満開となりました。



満開となった 対面桜



まつの保護

境内地にある99本のまつを毎年20本程度、樹幹へ直接薬剤を注入することで(点滴のようなもの)マツクイムシから保護しています。

事業名は、環境に配慮した松林保全対策事業(森林病虫害等防除事業)で、薬剤はマツガードです。また樹木医の診断による酸素供給孔の設置など樹勢回復治療も行っています。

この事業も皆様から寄せられた献木の一部を使わせていただいております。



酸素供給孔の設置



樹幹注入の様子

ちょっとえ話

編集後記

「お元気ですか。はい、お陰様で元氣です」私たちは良く「お陰様」という言葉を使います。私たち日本人は昔から有り難う、だけでは気が済まないのではお陰様というのです。光が当たれば陰が出来ます。陰は暗くて見えにくい所です。元氣ですという事ははっきりと見える光の部分です。反対に目に見えない部分「陰」に「お」を付けて「様」を付けてお陰様というのは陰の部分を大切に思っている証拠です。元氣ですと言えるのは、太陽や水や土や自然の恵があったからです。これは目には見えません。元氣な私が光の部分だとすると自然の恵みは陰の部分といえます。陰の助けが無かったら今の元氣な私はなつたはず。それを思ってお陰様というのです。お元氣で良いですねと言ってくれた人には、直接関係なくても陰で助けてくれた人たちにお礼の気持ちを込めて、お陰様と挨拶するのです。私たちのご先祖様は、いい言葉を残してくれたのです。(M)

平成28年版
予約受付中
〈限定1000本〉

献木口

2000円

なお、一回に五口以上の献木を
いただいた方には1本進呈致します。

木製干支カレンダー 中西啓寶座主 短冊付 価格3500円



山林部と連携した森づくり

高野山寺領森林組合

高野山の森林は、816年にお大師さま(弘法大師空海)により開創されて以来1200年もの間、その尊厳を護り続けることを理念に、総本山金剛峯寺が大切に育成管理してきました。

高野山では、「すべての生きものが共にたすけ合う」というお大師さまのお教え、「共利群生きよりぐんじょう」を目指した森づくりを行っています。

高野山寺領森林組合では、金剛峯寺所有のお山の植林や下草刈り、枝打ちなどの育林をはじめ、間伐した材の搬出を行い、歴史ある高野山の木を広くご活用いただいています。

高野霊木の柱

主として寺院の建築・修繕用材として育成されている高野山の森林。その育成過程で生まれる50〜60年生の杉を製材・加工し、「高野霊木」として一般建築向けに分けさせていただいています。床柱や化粧柱など、暮らしのシンボルとしてそして心のささえとしてぜひ高野山の森とのつながりをご体感いただければ幸いです。



3つの特典

高野山の森林
のご案内

焼印

高野霊木
証明書の発行

高野杉フローリング



高野杉を使用し、新たに無垢フローリング(床板)としてお届けさせていただきます。優しい質感と、温かい肌触りが魅力の高野杉。ダイニングや子供部屋など、リラックスできる空間にぜひご検討下さい。

お問い合わせ 高野山寺領森林組合
〒648-0211
和歌山県伊都郡高野町高野山45-17
TEL:0736-56-2828 FAX:0736-56-9055

会報バックナンバーはこちら

<http://koya-forest.jp/blog/>

山林部ブログ

検索

お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林部
TEL:0736-56-2016(直) FAX:0736-56-4640
E-mail: sanrinka@koyasan.or.jp
※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報ください。

『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。
郵便振替口座: 大阪 00930-6-61758
ゆうちょ銀行: 〇九九支店 当0061758
加入者名: 宗教法人 金剛峯寺山林部